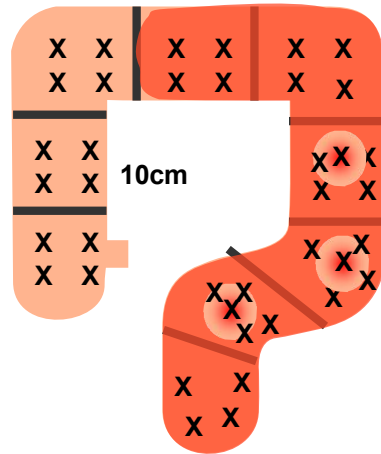


潰瘍性大腸炎の癌化・サーベイランスの研究（添付資料）
 潰瘍性大腸炎長期経過例へのサーベイランスシステムの確立
 狙撃生検とStep biopsyの有用性に関する比較検討

Step biopsy群



■潰瘍性大腸炎合併大腸腫瘍を発見するためのサーベイランス法の有効性を比較検討する多施設共同研究(Randomized controlled study)

■対象:発症後7年以上経過した潰瘍性大腸炎症例(左側大腸炎型・全大腸炎型)。

■方法:Step biopsy群と、狙撃生検群の2群に割り付けサーベイランスを行う。症例数は、1施設4例(Target 2例, Step 2例)を基本として、登録数は、各群100例とする。

■主要評価項目は、潰瘍性大腸炎合併腫瘍発見率とする。

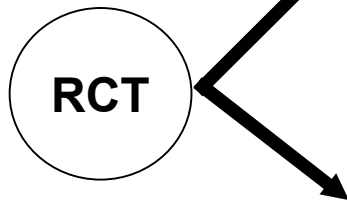
■生検採取方法:Step biopsy群は、10cm毎のStep biopsyおよび有所見部からの狙撃生検を行う。狙撃生検群は有所見部のみから生検組織を採取し、Rbからは所見が無くても生検1個を採取する。

■色素散布

➢基本は通常内視鏡を実施し、必要があれば色素散布、拡大内視鏡は施設によって実施しても良い、(Pit patternは可能出れば観察する。)

■病理診断

➢味岡先生と病理委員でチェックする。



狙撃生検群

